

校長室だより第 29 号（令和 7 年 10 月 20 日）

後期が始まり、4 日が過ぎました。朝の校門では、元気なあいさつが交わされていて、とてもうれしいです。

さて、今日（10 月 20 日）は芸術鑑賞会でした。来ていただいたのは、『ピアニカの魔術師』というグループ。ドラムとギターとキーボード、そしてセンターにはピアニカを持った魔術師という 4 人組でした。

魔術師はピアニカを巧みに操り、子どもたちの心を掴んでいきます。魔術師が持っているピアニカは子どもたちのそれとほぼ同じです。（少しだけ鍵盤が多い）なのに魔術師の手にかかると、次から次へとすてきなメロディーが生み出されます。車のクラクションや船の汽笛、舌や頬っぺたの使い方ひとつで同じ曲でも違う曲に聞こえてきます。

誰もが知っているテレビゲームから、コインをゲットする音や進化する音なども聞かせてくれました。キャラクターもどき（？）が登場すると大歓声が上がりました。

運動会でよく流れるドイツ生まれの「クシコス・ポスト」「天国と地獄」の演奏を聴いた後は、アメリカの音楽、ジャズの出番です。魔術師曰く「ジャズのルールは楽器同士で会話すること」だそうです。魔術師とギター、キーボード、ドラムとのそれぞれの会話を鑑賞した後、魔術師と子どもたちの手拍子での会話が始まりました。単純なものから複雑なものまで、子どもたちは魔術師に導かれたように集中し、リズムの会話をすすめることができました。

ピアニカを学校で使っているのはインドネシアと日本だけという話と、インドネシアではドラえもんが大人気という話が興味深かったです。

音楽の力がジャマイカの内戦ぼっ発を一歩手前で止めた話から、戦争のない世界を祈つての「このすばらしき世界」の演奏は見事でした。シーンとなる客席。低学年には難しかったかもしれません、思いは伝わっているなと感じました。私はルイ・アームストロングが歌うこの曲が大好きです。ボーカルもトランペットもなく、ピアニカ中心のすばらしい演奏に、涙が出そうになりました。

アンコールは「ルパン3世」のテーマ。この曲を演奏するにあたり、前方で踊るダンサーを魔術師は募りました。たくさんの子が前に出て踊り、大いに会場を盛り上げました。聴くときは聴き、盛り上がるときには切れのあるダンスを見せる小倉の子どもたちに感激しました。ここでも涙が出そうになりました。

ピアニカの魔術師さんたちすてきな演奏をありがとうございました。

注 「ピアニカ」は商品名です。一般には「鍵盤ハーモニカ」と言います。今回、この2つの言葉を使うと話が混乱しそうだったので、ピアニカに統一しました。